

こころなとこころに



1. 富士山のように
広く思いやりの心もち
たがいに助け合います

ラーメンサンタを15年



◁右端が樋口さん

12月4日、精神薄弱者更生施設の県立富士見学園へ、大盛ラーメンをプレゼントに、一足早いサンタクロースが訪れました。サンタさんは、今泉で中華そば店を経営している樋口軍治さん。材料からどんぶりまですべて持ち込んで、15年間欠かさずラーメンを振舞っています。

きっかけは、樋口さんが「園生が買い物訓練に出かけるとラーメンを食べたがる」と耳にしてから。今では、すっかり年末の恒例行事となり、園生は樋口さんの訪問を首を長くして待つようになっています。

また、この日、ラーメンと一緒に吉原料理組合の若手経営者の皆さんからお菓子の袋詰めが贈られました。

ふるさとの昔話



岩間さん



大淵 富士本の 茶道の観音さん

ことしは午年。大淵の富士本には幾つかの馬頭観音が祭られています。今回は、その一つ「茶道の観音さん」について富士本中の岩間政男さん(六十歳)に伺いました。

馬は家族の一員

今のように自動車や機械のなかった昔々のことです。馬は農作業や物の運搬に大事な労働力でした。そのため、人々は馬を家族の一員のように大切にしていました。馬が死んだりすると手厚く供養をし、馬の安全と生育を祈るために馬頭観音を建てました。ですから、馬頭観音とは馬の神様といえます。

お茶を運んだ馬を祭る

大淵第二小学校の六百メートルほど北を走る県道富士裾野線は、昔からの道で、現在の道の南に旧道が残されている部分があります。昔、この道を江戸に向かってお茶を運ぶ一行がありました。

昔の道は荒れており、坂は急で沢に橋もなく、江戸への道のりは険しいものでした。人も、荷物を運ぶ馬も大変で、一行は富士本にある大きな杉の木の下で一休みす

ることにしました。

ふと気がつく、一頭の馬の衰弱が激しいではありませんか。旅人は沢から水をくみ、与えました。旅のまま死んでしまいました。馬の一行と富士本の人々は、馬を杉の木の下に葬り、富士本の人々はそこに馬頭観音を建てました。以来、この観音さんを「茶道の観音さん」と呼んでいます。

大木の下にひっこす

茶道の観音さんは、旧道沿いの樹令二百年を超える杉の木の下にひっそりと建っています。高さ約五十センチ幅約二十五センチで、小さい銭やあめが上げられています。観音さんには嘉永六年(一八五三)という年号が刻まれていました。



茶道の観音さん

雑煮を訪ねて

日本古来のお正月料理は、やっぱり雑煮。ところが、一口に雑煮といっても千差万別です。引越して来てから三十年になる、厚原の藤原タカ子さんのお宅の宮崎県風雑煮をちょっとのぞいて見ました。

宮崎県風雑煮

藤原さんちの



しいたけでとっただし汁に、鳥肉、大根、里芋を入れて煮、みそ仕立てにします。もちと、ゆでた小松菜、彩りに紅白のかまぼこと結び昆布を添えたら出来上がり。

こちら編集室

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。ところで皆さん、お正月の来るのが年々早くなっているような気がしませんか。もちろん人によって違うと思いますが、世の中の情報化、合理化が進み、社会全体にスピードアップしていることは確か。精神的健康のために、たまには馬耳東風を決め込むのもいいかも。